

今日のみことば

□ 11月19日(日) 民数記 13章

モーセはカナン人の動向を探らせた。帰ってきた斥候は土地が肥沃なことには同意したが、10人の不信仰の報告により人々は恐怖を覚えた。

□ 11月20日(月) 民数記 14章

神は不信仰の民を滅ぼし、モーセの子孫から新しい民を起そうと言われた。主に反抗したこの世代の人々は荒野でみな死ななければならなかった。

□ 11月21日(火) 民数記 15章

長い刑罰の時を経て、赦されカナンの地に入ることができた世代を対象に与えられたささげ物の規定、安息日を破る重大さなどは、従来の規定を補足し、完全なものとした。

□ 11月22日(水) 民数記 16章

この章にはコラを首領とした主としてレビ人からなる群れの反逆事件と、ダタンとアビラムを指導者とした群れの反逆事件が記されている。それは神に対する反逆で、神が鎮められた。

□ 11月23日(木) 民数記 17章

神はアロンの家系が代々祭司となるのをご自身が擁護され、別の方法でもそれを確認された。それがアロンの杖である。これはモーセに対する主の命令です。

□ 11月24日(金) 民数記 18章

祭司もレビ人も、相続地を持つことはできなかった。その代わりとして神は祭司たちに、すべてのいけにえのささげ物、初穂と初子の残りの部分をお与えになった。

□ 11月25日(土) 民数記 19章

この章には、人の死体に触れた者の汚れを清めるための清めの水の作り方、及びその使用方法について述べられている。偶発的は汚れ危険防止のため、後に、墓が白く塗られた。

ろ ぼ No. 1842
2017年 11月19日
日本バプテスト 立川キリスト教会
牧師 大川 博之

詩篇 107:1

恵み深い主に感謝せよ／慈しみはとこしえに。

「恵み深い主に感謝せよ／慈しみはとこしえに。」詩篇の中でしばしば用いられる讃美の歌声です。どれほど私たちは、神さまの慈しみの中に生かされているか。お互いに心得させていただいています。収穫感謝祭など、この月私たちは様々な機会に、主への感謝を表させていただきます。どのようにその心からの思いを表現させていただいているでしょうか。

私は、聖書の中に記されているダビデの言葉に、心を留めさせていただくのです。ペリシテ軍との戦いにおいて、すべての敵から守ってくださった神さまに、ダビデは、感謝の歌を献げました(サムエル下22:1-51)。疲れを覚えて陣営に休んでいたダビデが「ベツレヘムの城門の傍らにある、あの井戸の

水を飲ませてくれる者があればよいのに」と切望する声に、三人の勇士が、ペリシテの陣を突破して、ダビデのために「あの井戸の水」を汲んできました。ダビデはそれを受け取りましたが、この水を飲むことを望まず、注いで主にささげ祈りました。これこそ、感謝の何たるかを私たちに教えてくれる言葉だと聞くのです。

「『【主】よ。私がこれを飲むなど、絶対にできません。いのちをかけて行った人たちの血ではありませんか。』彼は、それを飲もうとはしなかった。三勇士は、このようなことをしたのである。」と(サムエル下23:17)。

イエスさまは、神さまの喜びの知らせ・福音を語って町々を巡られました。重い病のために人々から隔離されていた人たちも、遠くから叫び声を上げて救いを求めました。イエスさまはその声をしっかり聞かれ、「祭司たちのところに行って、体を見せなさい」と言われいやしてくださいました。10人は喜んで祭司のところへ駆けてゆきましたが、一人の男は途中でいやされたのを知って、イエスのところへとって返して、お礼を申しあげました。イエスさまはいやされたのは10人ではなかったか、ほかの9人はどこにいる、と言われました(ルカ17:11-19)

取税人のちびっ子ザアカイは、苦勞してイエスさまにお会いしただけではなく、家にまでお迎えして、じっくり神さまのご愛を知ったとき、彼はその持ち物を、主の喜びのご用に差し出してしまいました(ルカ19:1-10)。

「いかに楽しいことでしょうか／主に感謝をささげることは／いと高き神よ、御名をほめ歌い／朝ごとに、あなたの慈しみを／夜ごとに、あなたのまことを述べ伝えることは」(詩篇92:1-2)と旧約の詩人は歌いました。私たちの感謝は神にささげられるものです。感謝はどこから出てくるものでしょうか。決して人から勧められて出てくるものではありません。そしてそれは私たちのいのちにかかわる出来事を通して、受けたものですから、私たちもしっかりそこに生きさせていただきます。パウロは言いました「神の創造物はすべて良く、感謝して受けるなら捨てるべきものは何もないのです」(テモテ第一4:4)と。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————

イザヤ 52:13-53:12 苦難の僕

主は新しい出エジプトとも言うべき命令を告げられる。その詳細は語られなかったが、52章13節から第四のしもべの歌、すなわち、旧約における十字架の福音が語り始められる。

イスラエルの民は悲嘆と無気力が取り除かれ、神は母国に帰る民に伴おうとされている。その喜びの帰還から、そのために大きな犠牲を払われた方の、孤独な姿が語られるのです。

彼は、人類を神から遠ざけたすべての罪の重荷を負い、ご自分のいのちを神に差し出された。キリストより700年前のイザヤは、はっきりとキリストを見たのです。彼は、なぜキリストが来られなければならないか、そしてキリストが何をなさるかを知っていました。イザヤは人類のためにいのちを捨てられる救い主を知っており、また、神が彼を高く挙げられることを知っていました。これらのすべてのことの背後には、神がおられました。



Read God's Word.